

コミュニケーション英語を成功に導く

「トピック」「スタイル」「アクティビティ」とは

畠山 利一

1. コミュニケーション英語ならではのトピック
「誕生日を祝うのはなぜだろう」日ごろは気に留めませんが、改めて考えると理由は思いつかないのではないのでしょうか。BIG DIPPER English Communication I では次のように説明します。

In the past there were not enough good medicines or doctors. So, people were grateful if their children reached their next birthday. In this way, birthday celebrations began.

なるほど、昔は医者や薬が十分にはなかったから、生きのびて誕生日を迎えることは喜びだったのです。このように知らないことがわかったり、新しいことに気づいたりすると、生徒はその先を読みたくなるのではないのでしょうか。

中位レベルの生徒を対象とした英語の教科書を心がけて、高校生の知性にうったえるものを題材に選ぶことにしました。新鮮な話題、知る喜びがある話、身近なことであるが、視点をかえると、新しい姿を現すもの。このようなものを採用しました。

上に挙げた「誕生日」をはじめ、「世界の絶景」「日本最初の盲導犬」などがテーマになりました。手塚治虫が若者におくったメッセージは印象に残ります。

I love drawing manga. I never get tired of it. Find something for yourself like my manga. Anything is OK.

学習者の学力にあった英語で伝える。英語が難しすぎないように留意しました。

2. コミュニケーション英語ならではのスタイル

さまざまな文体が出てくるのも1つの特徴です。いくつか例を挙げてみます。

(1) 電子掲示板

"This spring, I entered high school. ... I am shy and I can't easily talk to my new

classmates. What should I talk about first?"
"Don't worry about it. Just listen to your classmates."

(2) 会話文

A: I'm going to visit Jim's house next week.
Why don't we go together?

B: All right. What day is good for you?

(3) 説明文

The marathon race takes its name from a battle between the Greeks and the Persians. This battle took place in 490 B.C. at Marathon in Greece.

(4) プレゼンテーション

Look at Slide 2 as an example of Japan's food production problem. In 2003, the Japanese government banned imports of beef from some countries for health reasons.

(1)(2)はくだけた感じ。短い文をつないでいる。(3)は普通の文。(4)は少し堅い感じ。個々の文が長い。言語は使用の場面によって表現がかわり、文体も異なります。やさしい英語を使うときと、難しい英語で表現するのがふさわしいときがあります。これに慣れ、場面に応じた表現ができることが望ましい。そのために、生徒がさまざまな文章スタイルに接することができるよう工夫しました。

3. コミュニケーション英語ならではのアクティビティ

コミュニケーション英語の名にふさわしく、活動として、生徒が意見を述べたり、友だちと意見を交換したりしやすい題材を選びました。ユニバーサル・デザインを取り上げた課では、導入として、"Can you find universal design around you?"と生徒の考えを聞き、本文では先生と生徒との会話が進められます。先生が生徒の意見を引き出しなが

らユニバーサル・デザインとは何か、いかに大事か、バリアフリーとの違いなどを説明していきます。

読みながら、生徒は自分ならこんな意見が言えると考えを巡らせることができるでしょう。読み終わって、生徒は、教室の友だちと議論することになっています。

食料の輸送距離を扱う *Where Does Your Food Come From?* では、高校生がスライドを見せながらプレゼンテーションをする設定です。幕の内弁当の中に入っている食材がどこから来ているか話します。遠ければ遠いほど運ぶのに多くの燃料を必要とし、多くの二酸化炭素を排出します。

パートごとに“*Work with a classmate.*” “*Express yourself in English.*” “*What will you do to improve the situation?*” などの指示があります。生徒はヒントを参考に、自分の考えを述べることになります。

4. 本書の構成

各レッスンは導入、本文、課末の3部分からなります。導入でテーマに関する背景知識を与え、本文へと進みます。課末では英文での要約をして、文法説明と練習問題をします。

本文を詳しく見ます。見開き2ページでひとまとまりです。左のページは130語前後の英文、右のページには文法・内容理解の問題・生徒の発言を促す問題という構成です。これで1パートを読んだという達成感を味わえるものにしました。

文法は、ここでは、英理解を助けるものを短く提示するだけにとどめ、解説や設問は課末にまわしました。英理解の流れを止めたくないと考えたからです。

英文を読んだ後、true or false 形式の問題で内容理解を確認します。次に“*Fill in the blanks.*” など日本語を仲介しないで答える問題を設定しました。さらに“*Answer the following questions.*” と *It's Your Turn!* では生徒が積極的に表現する設問を置きました。所々にヒントを入れて発言の手助けになるようにしました。

5. 言語機能 (language function)

「言語の使用場面」とともに、学習指導要領は「言語の働き」についてもふれています。「気持ちを伝

える」「情報を伝える」「考えや意図を伝える」などを取り上げ、活用することが求められています。

これは、周知のように、文法事項とは異なって、言語を使用目的から見たものです。コミュニケーションを円滑に行うためには、軽んじることはできません。本書ではFUNCTIONとして、5か所に各2ページずつを割り当てました。「誘う」「依頼する」「興味・関心を示す」「感情を表す」「主張する」など使用頻度の高いものを扱いました。

Key Expressions として基本表現をまとめて提示し、適宜、ていねいさの度合いや応答のしかたについても触れました。リスニングやペアワークをとおして、実際に使ってみる課題をつけています。

上で「(2) 会話文」として引用したものが「誘う」「同意する」の項の英文です。英語そのものはやさしい。しかし、意味がわかればそれでよいではありません。文脈を理解し適切に使えることが大切です。よく練習をして、すらすらと口から英語が出てくるよう、しっかりと身につけたいところです。

6. 音声・辞書・リーディング

発音は、言うまでもなく、重要です。各レッスンに必ず音声指導の項目を設けました。「アクセントがある音節は長く、アクセントがない音節は短く発音する」など具体的に説明しました。

辞書をうまく使うことができると、自分でかなりの学習ができます。「成句の引き方」「自動詞と他動詞」などの項目で辞書を引く活動を設定しました。授業で手ほどきを受けることによって、生徒が辞書に親しんでいくことを期待しています。さらに、英文を読むコツを「リーディングのポイント」として解説するなど、数々の特徴を盛り込みました。

カラー印刷の鮮やかな紙面に仕上がりました。バラバラとページを繰ると、美しい写真・挿し絵・グラフなどが目に入ります。楽しく学んで、英語コミュニケーション力を築いていただきたいと願っています。

(大阪国際大学教授)
BIG DIPPER English Communication I 代表著者)